

各関係大学長  
各関係大学学部長 殿  
各関係機関の長

国立感染症研究所長

感染症危機管理研究センター 危機管理総括研究官の公募について（依頼）

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、当研究所では感染症危機管理研究センター 危機管理総括研究官の選考を行うことになりました。

本センターは、感染症その他の特定疾病の危機管理に関し、情報の収集・分析・訓練・広報並びにこれらに関する科学的調査や講習を担当しています。本センターは2020年に設置され、2人の総括研究官（危機管理総括研究官、検査対応総括研究官）と1人の企画管理調整官を設置し、8つの室から構成されています。

危機管理総括研究官は、センター長のもと、危機管理グループ（以下に掲げる事務をつかさどる4つの室から構成される研究組織）を運営することになります。

- ① 第二室（緊急時対応室）：感染症その他の特定疾病の危機管理に関する調査及び研究並びに関係行政機関への連絡調整に関すること。
- ② 第三室（クライシスコミュニケーション室）：感染症その他の特定疾病の危機管理に関する情報の提供に関すること。
- ③ 第四室（病原体診断室）：他の部の所管に属さない病原体に関すると思われる原因不明疾患の検査、レファレンス、病原診断のための方法の開発に関すること。
- ④ 第五室（演習・訓練企画支援室）：危機対応演習・訓練の実施支援、プログラムの開発等に関すること。

同グループは厚生労働省、地方自治体の感染症担当部局、地方衛生研究所並びに所内各部・センター等と連携して感染症危機管理に関する業務を行うほか、感染症危機管理に関して、専門人材の育成や海外政府機関等との連携に関する業務も担当します。

つきましては、貴学（学部、機関）、貴所または関係機関において適任者がおられましたら、下記によりご応募賜りたく、周知方よろしくお願い申し上げます。

記

1. 候補者資格条件

- ① 感染症危機管理に関する卓越した見識及び実務実績があること。
- ② 感染症又は危機管理に関する十分な研究実績があること。
- ③ 国内外の行政機関、研究機関等並びに国立感染症研究所内各部・センター等と連携して感染

症危機管理研究センターが所管する感染症危機管理に関連する業務に取り組む能力と意欲を有すること。

- ④ 複数の室をまとめる指導力を有すること。
- ⑤ 学位（博士号）取得後4年以上を経過、あるいは同等と見なされる者であること。

## 2. 提出書類

- ① 履歴書（A4縦版横書き、氏名、生年月日、本籍（都道府県名）、現住所、学歴（高等学校卒業以降）、学位、職歴、1カ月以上の海外歴とその内容、所属学会名、学会等での役職名、国内外の委員歴、賞罰、健康状況等）
- ② 業績目録（A4縦版横書き、別紙様式をご参考下さい。）※corresponding author（責任著者）論文には、必ず各題名の書き出しに（責）と記入してください。
- ③ 主要論文の別刷（写し可）10編以内
- ④ 主要研究概要（A4縦版横書き1枚程度）と応募職への抱負（A4縦版横書き1枚程度）

3. 応募締切日 令和6年3月21日（木） 必着

## 4. 選考採用試験

- ① 書類選考 令和6年4月上旬（予定）
- ② 面接 令和6年4月下旬（予定）  
（面接に際し、プレゼンテーションをお願いする場合があります。）

5. 採用予定日 令和6年7月1日（予定）

6. 書類提出先 〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1 国立感染症研究所長宛  
応募書類の封筒には「感染症危機管理研究センター危機管理総括研究官応募」と朱書の上、親展とし、書留で郵送して下さい。  
なお、提出された書類は返却いたしません。

7. 問い合わせ先 国立感染症研究所 総務部人事課人事第一係 西川・谷内  
電話：03-5285-1111（代表）内線2024・2025  
E-mail：[jinji@nih.go.jp](mailto:jinji@nih.go.jp)

## 業績目録

氏名 \_\_\_\_\_

### 1. 著書

### 2. 学術論文(学会誌発表等)

#### (1) 欧文

#### (2) 邦文

### 3. 学会発表(講演・発表等)

### 4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

5. 行政、国際機関、企業等での感染症危機管理に関する業務の経験概要(代表的なもの(3~4事例程度)について、事例ごとに300字程度にまとめること。)

(記入上の注意事項(共通))

1. 上記項目ごとに、著者名等、著書名等、発行所名(発表雑誌名)の順で記載し、それぞれを改行すること。
2. 年代の新しいものから順に記載すること。
3. 発行所名、発表雑誌名の次に巻号、ページ数及び発行等の西暦を記入すること。  
(例:Journal of Virology, 78:1298-1315, 2002)
4. 欧文の発表等は、原文のまま記載し、下段に( )書で和訳を記載すること。
5. 各題名の書き出しに、発表形態の種別を記載すること。(単独は(単)、筆頭は(筆)、その他は(他))  
※コレスポンディングオーサー(責任著者)の論文には、必ず各題名の書き出しに(責)と記入すること。
6. 著者名等は、本人以外も省略せず全て記載し、さらに本人の名前にアンダーラインを引くこと。
7. 長期の無発表期間がある場合は、その理由書を添付すること。

(参考例)

1. 著書

- ①労働太郎、厚生太郎  
(他炎症の組織病態  
〇〇社, PP.67-87, 1989

2. 学術論文

(1) 欧文

- ①Taro kousei, Jiro Kousei, Saburou Kousei, Tarou Roudou, Jiro Roudou, Saburou Roudou  
(筆)An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in USA, 2002  
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2002年アメリカ)  
Epidemiology and Infection, 15:286-289, 2002

(2) 邦文

- ①厚生太郎、厚生二郎、厚生三郎、労働太郎、労働二郎、労働三郎  
(筆)An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in Oosaka, JAPAN, 2004  
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2004大阪)  
Epidemiology and Infection, 16:311-335 2004

3. 学会発表

- ①厚生太郎  
(単)ラット皮下腫瘍の消長と〇〇〇の相互関係について  
第25回日本病理学会総会, 東京, 1989

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

- ①厚生労働科学研究費補助金、(課題名)〇〇〇〇〇  
期間:平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年
- ②科学研究費補助金、(課題名)□□□□□  
期間:平成〇〇年~平成△△年、金額〇〇〇円/年